

2012年度 学校自己評価報告書(法政大学第二中・高等学校)

教育理念・目標	<p>教育理念:本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。</p> <p>教育目標①:人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。</p> <p>教育目標②:獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。</p> <p>教育目標③:学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。</p> <p>教育目標④:自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。</p> <p>教育目標⑤:自己の諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。</p> <p>教育目標⑥:高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。</p>
----------------	---

重点目標	<p>1、2016年度の男女共学化・新校舎建築の諸準備を実行する。</p> <p>2、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせる。</p> <p>3、生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。</p> <p>4、学校改革実行のため法政大学・育友会(PTA)・同窓会・地域との連携を強化する</p>
-------------	---

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2013年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	法政大学の付属校として学園の一翼を担う自覚を入学当初から意識化させるために、中学校1年の「校外授業」、高校1年「新入生合宿」など行事や、社会科の授業を通じて本校の建学の理念「自由」と「進歩」について学習する。大学史や二中高史の独自プリントを使用して、二中高生としての自覚を高めた。今後は大学の「法政学」とどのようにして連携できるかを模索する。また、中学校は神宮球場での全校応援を通じて、法政の一員である事を強く意識させた。				
2	組織運営	全教職員が組織的取り組みを通じて、教育方針をたて、実践をし、総括する。そのために年度末に1年間の教育活動を振り返る総括を行い、そこから導き出された教訓を方針化して教育実践をしていかなければならない。教員会議を通じて方針をたて、中間点検で実践活動の達成状況を確認し、年度末で1年間の活動をまとめることができた。				
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>教科においては、生徒全体の学力の底上げを図るべく、学習計画・内容の再構築や学力の到達状況に即した特別指導や課題の設定、および生徒が必要な学習課題をやりきるための日常的な指導の強化に努めた。さらには法政大学の付属校として、できるだけ多くの生徒の推薦に値する学力への到達を目指した。全体として、各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率も前年度より一定の改善がなされたといえる。次年度は新教育課程への円滑な移行と新校舎・共学化をふまえた教科教育の具体化とともに、引き続き法政大学への推薦率の維持・向上を推進したい。</p> <p>生活においては、生徒の生命・健康・安全を第一としつつ、養護教諭やカウンセラーと連携し、既往症やアナフィラキシーなど心身の状況把握に細心の注意を払いながら、適切な対応を心がけた。また、暴力の絶対禁止といじめ防止を柱に据えながら、HR等を通じて日常的に、「自他を尊重する豊かな人間関係づくり」と「自立へ向けた支援」を促すため、学年組織を中心に「事故を未然に防ぐ指導」を展開した。さらに、生徒会を中心に各種行事や部活動などの自主活動にも力を入れ、生徒の自主性と能動性を培うとともに、民主的なクラブ運営と科学的トレーニングの実践にも取り組んだ。その他、学習・発達障害などの困難を抱える生徒の実態把握のための研修会や、家庭での問題を抱える生徒実態の早期把握と対応についても、情報の共有を進めながら丁寧に対応した。今後は、2016年度共学化に向けた生活指導のあり方に関する情報収集と具体化を模索したい。</p> <p>進路においては、中高6カ年の進路指導の体系化を推進するとともに、法政大学への進学を展望させるための進路観の育成に努めた。各学年において、進路講演会や進路作文、および各種説明会など、6カ年の体系を意識した取り組みを展開することができた。次年度は各種取り組みのさらなる充実化と、指導の体系化を継続したい。</p>				

4	安全・保健管理 (保健、安全、防災、 施設等)	定期健康診断・体力測定(スポーツテスト)の実施とその分析を生徒に返すことで、自分の健康状態や体力、ひいては健康についての認識を深めさせる。AEDについてはトレーナー機を生徒全員が扱うことができるようにすること、また学校内のどこに設置されているかを理解させる取り組みをおこなっている。宿泊を伴う行事では、健康チェックを行う前から実施したり、保護者へのアレルギーアンケートを行うなど特に留意している。夏休み前には、全教職員対象の健康安全講習会を実施し、専門家をお招きして救命救急についての講義ならびに実践を学んでいる。この取り組みは同日に生徒対象(各部の代表者が参加)でも実施している。また特に夏休み中の熱中症などの対策として健康アンケートやコンディショニングチェックの実施もおこない、健康・安全への注意喚起と各人の対処がよりよいものとなるよう研鑽を積んでいる。避難訓練については年3回、中高合同でおこない、防災の日の前後に特別防災訓練をおこなっている。現在新校舎の工事中のため、避難場所が流動的な面もあるため、工事の進捗状況をみながら、よりよい避難場所・避難経路の見直しを学期ごとにおこなっている。また防災用品については、長期間保存がきく備蓄品を買うなど、よりよいものに変更している。
5	連携 (保護者、卒業生、 地域等)	保護者との連携では、育友会(PTA)との連携を基礎に、育友会理事会の円滑な運営に寄与するとともに、毎年夏に開催される「育友会集中ミーティング」における学校と保護者の意見交換に重点を置いた。また、定期的に育友OB会、白塔会(中学保護者OB会)との連携も行った。日常的な保護者連携としては、各学期に開催される保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。 卒業生は同窓会を窓口として、ホームカミングデーの開催、監督コーチ懇談会(日常の部活指導におけるOBとの連携)、進路指導の一環としてOB講演会を実施した。今後は、新校舎建築と共学化に向けた募金活動と卒業生名簿の整理を行いたい 地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、毎年行われる地域懇談会での率直な意見交換を始め、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応、学期末ごとに生徒が行う地域清掃ボランティア(各部の部員が中心となって取り組む)、教員による年5回の登下校路上指導、一部の部活動による参加ではあるが、地域商店街のパレードやお祭り(御輿担ぎ)への参加等を行った。次年度以降も、開発が進む武蔵小杉周辺地域の動向に注視しながら、地域に根ざした活動をより重視し連携強化に努めていきたい。
6	大学との連携	大学との連携を更に強め、取り組みの幅を広げていく必要がある。授業時間、他の行事などの関係から、大学とのスケジュール調整が難しい。高校各学年での大学教員を招いての進路講演会。「3年3学期プログラム」への援助。大学全体での高1対象「ウエルカムフェスタ」の開催をめざしている。 各学年での進路講演会は、それぞれの成長過程に合わせて、成功させてきている。

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2013年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	新校舎建築	2016年の男女共学化に向けて、新しい学校構想の下校舎建設を実施する。新校舎の設計と決定、住民説明会の実施、保護者・OBとの協力的な構築、「ありがとう時計塔」集会の実施、既存の建物の解体と第一期工事の開始。現在、第一期工事は順調に進み、第二期工事に向けて細部にわたる調整を行っている。ただ、工事にともない屋外活動場所が限られて来ているので、より一層の生徒に対する安全対策が求められる。				
2	2016年度 新学校構想	付属校ならではの学力とは何か、各会議の討議を経て確定しつつある。 第1期工事(新校舎)完成にともない普通教室の電子機器化が進むことになるため、ICT教育の研究を始めた。また、2016年の男女共学化から、女子生徒の生活指導、クラブのあり方、教科カリキュラムなどの研究を始めた。2008年の中高合同から、さらに中高クラブの拡大や教科の人事交流も進み、中高一貫の6年体制も形式だけでなく内実をとまなうものになりつつある。				
3	新制服制定準備	2016年の男女共学化にともない、女子制服を制定し男子制服を改定する。制服検討委員会を立ち上げ、制服業者をリサーチ、育友会アンケート調査を実施して、制服業者を決定する。業者を決定して、具体的な制服のデザイン、付属物を決定していく。				
4	「11.3事件」50年 式典	11.3事件を振り返ることによって現時点で教訓としておきたいこと、今後の二中高の教育活動において大事にしたいことを考えるために「11.3事件」50年式典を実施した。実行委員会を設置し、神奈川朝鮮高校とも連絡を取りながら、この事件に関わった教職員から聞き取り調査をおこなって記録を作成することをめざした。実行委員会では2回にわたる学習会と聞き取りを行い、式典でシンポジウムを行った。その内容については「教育研究」に掲載した。この式典を通じて11.3事件が本校の民主教育の一つの出発点だったことが確認されたので、今後も組織討議を通じて意思の統一を図る本校民主主義を発展させなければならない。				
5	国際交流	国際交流を目的とする中学3年生の研修旅行先であるニュージーランドオレワカレッジとの姉妹校提携が成立した。両校の教員が互いに訪問し合うという交流が行われた。今後は、生徒間の長期交換留学なども検討していきたい。				
6						